

研究室紹介号



知識情報・図書館学類誌 MILK とは？

M Management

I Information

L Library

K Knowledge

2007年の創刊以来、学類生ならではの目線で学類生に有益な情報を
年2回(7月・12月)お届けしています。
今回は研究室紹介号をお送りいたします。

CONTENTS

知識科学主専攻

歳森敦研究室	02
横山幹子研究室	03
照山絢子研究室	04
叶少瑜研究室	05

知識情報システム主専攻

松本紳研究室	06
宇陀則彦・松村敦研究室	07
加藤誠研究室	09
阪口哲男研究室	10
関洋平研究室	11
時井真紀研究室	12
若林啓研究室	13
落合陽一研究室	14
森嶋厚行・渡辺知恵美・松原正樹研究室 (融合知能デザイン研究室)	15
高久雅生研究室	17
鈴木伸崇研究室	18

知識資源経営主専攻

逸村裕研究室	19
吉田右子研究室	20
綿抜豊昭研究室	21
鈴木佳苗研究室	22
村井麻衣子研究室	23
小泉公乃研究室	24
原淳之研究室	25
バーリュシェフ・エドワルド研究室	26

※執筆を承諾していただいた先生方からの掲載となります。
学生を募集する研究室のすべてについては、学類からの掲
示などでご確認ください。

歳森研究室

tosimori@slis.tsukuba.ac.jp

研究テーマ

現代に生きる我々は、人から聞く、テレビで見る、新聞で読む、ネットで調べる等、いくつもの方法で情報を得て、知識を獲得します。このような情報源の選択や情報の評価の際の人間の行動と意識を量的調査の実施とその計量的な分析から解明していきます。

過去の卒業論文のテーマ

- ・ブログから読み取れるうつ傾向の変動と要因
- ・大学生の専攻意識とキャリア選択に関する研究

● 学生研究室

7B240

机、研究室のパソコンとプリンタ、ホワイトボード、モニターがあります。
池内研、辻(慶)研、三波研の方々と一緒に使っています。

● ゼミ

週1回、2時間程度

基本的には上記の通りですが、自分の予定や進捗によってまちまちです。

● 卒業後の進路

- ・東京電力
- ・Softbank
- ・野村不動産
- ・Accenture
- ・公務員
- etc.

失敗しない「研究室の選び方」※1
で挙げられている項目にゼミ生が回答すると…

1. 自分と向き合う

－各自向き合ってください。「何をしたいか」くらいの問題だと思います。

2. 先生と自分の相性

－「来るもの拒まず去る者追わず」な先生だと思えます。でも、面談はしたほうが良いと思います。面談といっても、気負わずに、ぼんやりと考えていることでも話してみてください。

3. コアタイム

－ありません。好きな時に来て、好きな時に帰っています。

4. 研究環境

－足りないと思うものは先生に相談すれば、用意してくれる、あるいは代替策を一緒に考えてくれます。

5. 研究業績

－卒論は、みんな苦勞していますが、みんな卒業しています。

6. 良い先輩がいるか

－皆さん優しい方(のはず)です。

7. 学生同士の間関係

－付かず離れずだと思います。

8. 卒業生の進路

－なんとなく立派にそれぞれの進路に進んでいます。

※1 <http://www.wynned.com/entry/how-to-pick-lab>

横山研究室

横山研究室では、哲学的視点から、知識を巡るさまざまな問題を扱います。学生は、知識の本質、知識の限界、知識の共有等々さまざまな問題に取り組んでいます。

「哲学的視点から」の意味、卒業研究の二つの方向性

- ①主張したいことを言うために、哲学での議論を参照する。たとえば、公案解釈に、ポール・グライスの会話の理論を使う。
ウォルトンのごっこ遊び理論をつかって演劇論を考える。
- ②哲学で問題になっていることについて、他の哲学者の議論を参照に論じる。たとえば、「哲学の方法論として直観は使えるか」、「人間とコンピュータは違うのか」

現在のゼミの概要

現在のメンバー：4年生3名 大学院生1名

研究室（7D517）

長期休暇の例外を除き、週1回のゼミ。ゼミの日時は、ゼミ生の1週間の予定を考えて、ゼミのメンバーが決まった時点で、相談して決めます。ゼミにかかる時間は、大体、2時間から3時間です。一人一人が1週間でやってきたことを発表し、それに対して、ゼミ生と教員で議論します。それを人数分繰り返します。3年生の内にテーマを絞り、4年になってから先行研究の調査、中間発表後は、テーマについての考察というのが一般的な流れです。

2019年度ゼミ生（4年生）の現時点での研究課題

「宮沢賢治作品における猫という存在が果たす役割について-ウィトゲンシュタインの言語ゲーム的観点から-」

「マックス・シェラーにおける愛の概念を用いた現代の愛の分析」

「情報倫理に関する哲学」

卒業後はどうするのか？

いろいろな人がいます。大学院に進学した人、国立大学の図書館員になった人、私立大学の事務員になった人、故郷に帰って市役所に勤めた人、高校の数学の先生になった人、公務員関係図書館関係以外なら、SE やテクニカルライティング関係、金融機関や食品関係の会社の総合職、専門学校に行きなおしてマッサージ師という人もいました。本当にさまざまです。どんな仕事についても役に立つ、問題を発見し、その問題について論理的に考え、問題を解決していく力を身に付けていただければと思っています。

興味のある方は、横山（mikiko@slis.tsukuba.ac.jp）までご連絡ください。

照山研究室 ゼミ室紹介！

概要

現在の構成員：4年生5名（知識科学3名／情報資源経営2名）

研究室：情報メディアユニオン3階 学系共同研究スタジオ4（303-1）

常駐可！ソファー、電子レンジ、冷蔵庫など充実した設備有！（*叶研との共同研究室）

形式：週1回2限連続でゼミをしています。文献の輪読、調査報告等、担当者がレジユメを作って発表します。長期休暇中はゼミなし（各自じっくりフィールドワークに取り組むことを期待します）

ゼミ合宿：希望があれば行えます！

（今年は神戸、昨年は福岡に行き、楽しみつつフィールドワークの基本を学びました！）

ゼミのテーマ：基本的には「フィールドワーク」を伴う研究をサポートします。

具体例

- 特定の場やコミュニティに所属する人々、また特定の属性を持つ人々について研究する。
（例）図書館、特定の店、地域の集まり、患者会、自助グループ、社会運動グループなど
- コミュニティに出向いて活動を共にしたり、所属する人々にインタビューを実施したりする。
- コミュニケーションを通じて彼らが共有する文化、価値観、規範などを明らかにしていく。

受入人数：最大5名 知識科学主専攻3名 情報資源経営主専攻0~2名

その他ご質問等あればこちらまでどうぞ！→連絡先：teruyama@slis.tsukuba.ac.jp（照山絢子）

<<求める学生像>>

研究の性質上、インタビューを取ったりお話を聞いたりすることが必要となってきます。そのため、フットワークが軽く、人と話すのが好きで、幅広い興味や問題意識を持てる学生を募集します！

<<今年度4年生の研究テーマ一覧>>

- ①：外国人留学生・研究者とその家族に対する支援の在り方
- ②：終活における宗教観の影響について
- ③：レズビアン風俗という場について
- ④：アダルトチルドレンの恋愛観及び結婚観
- ⑤：プロ野球「広島東洋カープ」のファンコミュニティに関する研究

<<その他 Q&A>>

卒業研究はどのように進めますか？先生に相談しながら進められますか？

⇒基本的に研究は各自で行いますが、先生から適切な指導と助言を頂きながら進められます。

飲み会はありますか？

⇒飲み会は年に2~3回、慰労会のような形であります。

どのような雰囲気の研究室ですか？

⇒和やかな雰囲気の研究室です。ゼミ生間で活発に意見交換が行われ色々な考え方に触れられます。

メディア心理学研究室の紹介

- ・ 教員：叶少瑜 Email: shaoyu@slis.tsukuba.ac.jp
 - ・ 研究室 教員：7D206 号室 学生：ユニオン 303-1
 - ・ ゼミ指導：全体ゼミ（修論生とともに）による進捗報告とともに、必要に応じて個人指導による指導も行います。
- ★ 研究内容：主にメディア心理学のアプローチから、対人コミュニケーションにおけるメディア使用の影響を究明するため、主として量的調査法と実験法を用います。
- ★ 研究に対する捉え方：基本は料理することと同じ（笑）。



本研究室では、現在以下のような研究を進めていますが、これらに限定されずに、コミュニケーションとメディアに興味・関心のある方を歓迎します。なお、本研究室は人を対象にする研究するため、フットワークが軽く、人間嫌いではない方を優先して受入れます。

【対人信頼感とメディア使用】

対人信頼感の高い人がより幸せに感じていますよ！それは、対人信頼感の高い人は対面でもオンライン上でも多くの人と交流し、広い社会的ネットワークを構築することができ、様々なサポートが得られるため、心理的幸福感を高めることができるのです。では、どうすれば信頼感を高めることができるのでしょうか。

【安心・信頼と異文化適応】

異文化コミュニケーションの視点から、内集団に対する安心感と外集団に対する信頼感がいかにソーシャル・サポート・ネットワークの形成と被受容感、及び異文化適応に影響を及ぼすのか。また、対面に比べて、様々なメディア/ソーシャルメディア使用がどのような影響を及ぼすのかを研究しています。

【社会的寛容性とメディア使用】

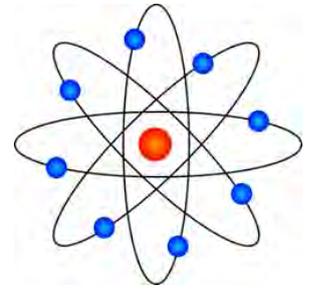
相手が自分と同じ意見や考えを持たないと交流しない、Twitter等の投稿に対して「いいね」を押さない！見たくない投稿をミュート・ブロックする！Twitter等が多くの利便性をもたらす一方、社会的寛容性を低減させ、不快感が生じてしまった結果、対人関係に負の影響を与えてしまいます。どうすれば使えばよいか一緒に考えましょう！



2016 年度卒論生 洪木さんが
学会発表にて優秀賞受賞



2016 年度卒論生 内田さんが
学群長受賞



ここ数年、管理職専念等のためゼミ生を募集してきませんでした。2020年度、ゼミ生募集を再開します。(尤も、2020年度末で定年を迎えますので、最後のゼミ生となります。ぜひ一緒に卒業しましょう！)

研究テーマ：計算物理学（ミクロの世界で電子がどのように運動しているかを計算によりシミュレーションします） また、最近では、*Materials Informatics* にも興味があります。これは計算物理の莫大な結果と統計手法、人工知能を用いて新物質探索を行なう、いわゆるデータサイエンス・オープンデータの分野です。

卒業研究では、必ずしも物理にこだわらなくても各自の興味を持てるテーマを相談により決めます。(研究テーマとして価値があるか、すでに研究され尽くされていないか、1年間で消化できるかなどなど・・・)

あまりちゃんと更新していませんが、過去の卒研テーマ例は以下をご覧ください：

<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~matsumoto.makoto.fm/semi/sotsuken.html>

ゼミスケジュール：週一回全体ゼミ + α (個別ゼミ)

12-2月：卒研テーマ決め (テーマ関連領域の調査等)

3-5月：着手

6-9月：合宿 (未定)

10-11月：研究まとめ

11-12月：卒研執筆

1月：最終発表会

全体ゼミは、各自の進捗状況を発表してもらおうほか、共通の文献 (論文や教科書など) の輪講を行なう予定です。

前提条件：今まで物理の知識がなくてもOKです。ただし、数学を使う可能性は大です。(テーマに依存します) プログラミングの知識は今のところ必要ありませんが、プログラミングを毛嫌いする人には向いていないかもしれません。

基本的に共同研究室に常駐して研究にはげめる人であれば、それまでの前提は問いません。ぜひ、卒研を通して、研究の楽しさを体感してほしいことと、自分で困難を切り開いていく力を身につけてほしいと思います。

ゼミ生の就職先の一例 (含大学院生)：日立製作所, 富士ソフトABC, 富士通, トッパンフォームズ, インフォコム, 日立ソフト, 点字図書館, 明治製菓, SONY, JFE システムズ, 東芝デジタルメディア, YAHOO, 三菱電機, パナソニック etc.

宇陀則彦・松村敦研究室紹介（用語集）

雨男

宇陀先生の別称。雨が降ると「宇陀先生、近くにいる？」と言われる。体調がよいと嵐になり、体調が悪いと晴れる。↔晴れ男

宇陀（長谷川）研

サバティカルに出かけた長谷川先生のもとから宇陀研にやってきた M2 の所属。公式の所属は確かに宇陀研なのに裏の指導教員・長谷川先生と常に連絡を取っているため長谷川研だと思われていた。最近うだまつ研メーリスにも登録され情報が入手できるようになった模様。

うだまつ研

宇陀研と松村研がゼミや合宿やイベントを共同で行うときに、まとめて呼ぶときの名称。

内田家の人々

某お母さんゼミ生の一家のこと。時折 7D240 を占領してリビングがわりにしていることがある。ドラマのタイトルのようなのだが、ごく普通の家庭らしい。

うどん

松村先生の好物。つくばにはいいうどん屋がないので、第一回ゼミ合宿を香川にしたほど。東京授業の日に、TOKYO LIGHT BLUE HONGO-3 (旧こくわがた) に寄るのが楽しみ。

絵本

松村研のメインテーマの一つ。子どもにあった絵本をすすめるという課題に対して、実験、調査、システム開発と多面的なアプローチで研究している。絵本好きなら誰でもウェルカム！

王将

宇陀先生の青春の味。宇陀先生にとって王将とは「餃子の王将」のことで、「大阪王将」は認めていない。餃子の焼き方は店によって上手い下手があるとのこと。

お菓子大臣

研究室に常備されているお菓子の買い出しを担当する係。大臣と副大臣がいる。宇陀先生の

指定により、黒豆せんべいは必ず買うことになっている。

オープンラボ

毎年 10 月の研究室選択の時期になると開催される。研究室パンフレットを準備し、先輩たちが後輩に直接研究室の説明をする。3 年生だけでなく、2 年生や 1 年生も来てかまわない。

課題図書コーナー

研究室の一角に設けられた書籍スペース。研究室内外の人が「ぜひ読んでほしい本(漫画含む)」を置いて行っている。最初は宇陀先生のイティハーサを置くために作った机上スペースだったが、その後作品が増え続け机を圧迫し始めたので移動した。ハマるかハマらないかは読んでみないとわからない。

近未来シリーズ

学園祭で出展する企画名のこと。グランプリを 3 度受賞している。国立国会図書館のカレントアウェアネスに記事が載っている。今年は 10 周年を迎える。

今週の松村研

松村研ゼミの冒頭で、この 1 週間にあった研究以外のことを話す時間。松村先生の家庭の話やゼミ生のバイトや部活の話など普段は見えにくい一面が見られて、親睦を深めるのに一役買っている。最近は、リア充ネタが多いことが問題となっている。

サイバーフィジカル

最近内閣府が提唱している科学技術政策のひとつ Society5.0 と同義。その遙か前からうだまつ研が目指してきたもの。ついに時代が我々に追いついてきた。

真の終電

つくば～柏の本当の終電のこと。松村先生が TX 通勤 7 年目の秋、パパ友の一言でそれまでの終電の概念が覆され「真の終電」が生まれた。真の終電が発動されるのは、真の修羅場だけ。

ゼミ

週一で行われる議論の時間。宇陀研は 1 時間も

かからない。松村研は5時間におよぶことがある。個別ゼミを行うことがある。

第二次常川内閣

うだまつ研のゼミ頭として最も安定した時代のこと。総理大臣の常川まおまおさんを中心に、通信大臣、広報大臣、環境大臣、合宿特命大臣、近未来大臣など、一丸となってゼミ運営にあたった。

知識情報空間

宇陀研のメインテーマの一つ。知識創造を行う活動としての「場」に関わることなら何でもよい。知識について考えたい人はウェルカム！

TT

ある時からイニシャルで呼ばれるようになった某院生。松村先生の娘さんからもTTの愛称で親しまれている。現在外国逃亡中。→晴れ男

なおちゃんBOT @naotyan_bot

なおちゃんの発言をまとめたbot。常に爆笑を巻き起こす彼女の発言を残しておこうという動きから実際に作成された。例「やせたーい(とんかつを食べながら)」。日々爆笑発言が繰り返されるため、登録が追いつかない。

夏合宿

夏休みの合宿。遠くに行くことと卒論/修論に関わらない研究活動が目的。これまで、高松、函館、津、青森、熊本、広島、金沢、倉敷、米沢を訪れた。現地集合、ホテルは各自確保で一度も「合宿」であったことはない。2019年度は10年ぶりに実施しなかった。

7D240

我らが共同研究室。長谷川研とも共同。ソファ、電子レンジ、電子ケトル、冷蔵庫が備わっており、あとシャワーさえあれば暮らすことができる環境。発表会前や卒論提出前はお風呂に入った後、また戻ってきて夜を明かす人が続出する。7D240にあるプリンタは複数の先生で共用しているので、出力を取りにくるとき、怪訝な目で見て去っていく。

悩み隊

研究や人間関係、将来のことなどどうでもいいことに必要異常に悩んでしまう人たちの総称。主に宇陀研に多い。古から生息しているが、今年も大型新人が加入した。例年は長谷川先生が一刀両断してくれるのだが今年はサバティカルで不在のため深みにはまり続けている。

晴れ男

気温34度まで上げるという異常体質を持つゼミ生TTのこと。→TT ↔雨男

ピザ

発表会直前などで、皆が焦りだすと先生が注文してくれる。経験則により、4人にLサイズ1枚で計算するとちょうどよい。

ふいーちゃん

ある日突然研究室にやってきたアザラシの赤ちゃん。正式名称はセラピー用アザラシ型ロボット「パロ」。その愛らしい姿と声で悩み多き人々を癒している。濡らすとお腹を搔ぐ捌いてバッテリーを抜かないといけないので細心の注意が必要。なお本名はとても長い。最近は柵に入りっぱなしで出てこない。

プチ合宿

夏休みの1週間、教室を借りて(大抵7A208)、朝から晩まで集中して卒研等を行う会。みんな出前をとる昼食が楽しみ。過去、プチ合宿によって卒研が格段に進んだという例が多い。

フリーアドレス制

うだまつ研の特徴の一つ。7D240は席が固定されておらず、どこでも気分に応じて自由に席が選べる。コミュニケーションが活発になり、知識創造が起きやすい。

もんちゃん

ふいーちゃんより後にやってきた癒し系ぬいぐるみ(でかい)。うだまつ研のソファからみんなを見守っている。実はいわくつきのぬいぐるみだが、みんな気にせず仮眠用毛布として使っている。それほどでかい。本名は近松門左衛門。

加藤研究室

加藤研究室—知識獲得システム研究室—では、Web に存在する多くの数量データから知識を自律的に獲得するシステム、および、それらの知識を人が検索するためのシステムを実現することを目指しています。

2019年度から新設の新しい研究室です。1期生を募集しています。

Web サイト： <http://kasys.s.lis.tsukuba.ac.jp/>
E-mail： kasys-contact-ml@klis.tsukuba.ac.jp
今年度の学群生受入人数： 5名

教員部屋： 7D308
学生部屋： ユニオン2F 共同研究会議室2
ゼミの頻度： 週1回

主な研究分野

本研究室では**情報検索分野**の下記の研究分野を主な対象としています： 検索モデルとランキング、ランキング学習、検索意図推定、知識ベース構築、知識ベース応用、Web マイニング、情報抽出、検索ユーザ行動分析、検索ユーザモデリング

主な研究トピック

- 本研究室の主な研究トピックは**知識獲得システム**です：
1. 多くのリソースから知識を自律的に獲得するシステムを構築する（単純な例： テキストから因果関係を抽出する）
 2. 構造化された知識を人が検索するためのシステムを構築する（単純な例： 人物検索、商品検索）

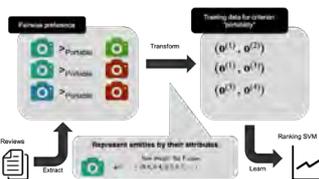
過去の研究テーマ



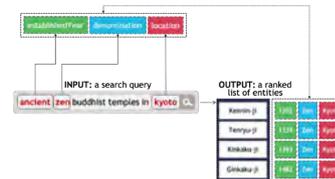
2つのモノを足して2で割る検索：
「宇多田ヒカル」と「X JAPAN」を足して2で割ったような音楽を検索



アナロジーでモノを検索： 京都で言うところの「川床」のようなお店をつくばで検索



経験でモノを検索： 「夜景が綺麗に撮れる」や「持ち運びやすい」など、得られる経験をもとにカメラを検索



修飾語でモノを検索： 「歴史ある」寺や「広い」ホテルなど、修飾語を考慮して検索

年間スケジュール（予定）

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
イベント																
	研究室仮配属			プロジェクト研究発表会			着手発表会			中間発表会・ECIR 締切			卒論発表会・SIGIR 締切			DEIM 参加

輪講（週75分）

教科書輪講とプログラミング輪講があります。教科書は情報検索の基礎（12月～1月）、言語処理のための機械学習入門（2月～3月）、深層学習による自然言語処理（4月～5月）を使う予定です。プログラミング輪講ではPythonを用いる予定です。

研究紹介（週75分）

自分の研究内容や最近読んだ論文、近況・趣味などを紹介する時間です。

ミーティング（週30分～60分）

基本的に1対1で研究の内容について議論する時間です。

主な研究テーマ（2019年現在）

本研究室の2019年現在の主な研究テーマは**データ検索**です。以下に研究テーマの例を挙げます：

1. 「音楽業界は衰退しているか」や「どの企業がブラック企業か」などの疑問に答えるためにWebからデータを検索
2. 「2006年から〇〇の売上が伸びている」や「茨城県南部では〇〇が増加」などのデータを考察する文章を自動生成
3. グラフや統計データから自動的にその内容を要約するようなグラフを生成
4. Web上の統計データなどを解析することによって、それらを活用できるように変換し集積するシステムを構築
5. TwitterやWeb検索エンジンのログなどから、明日の豆腐の消費量や筑波山の登山者数などを自動的に推定

阪口研究室とは？

～快適な情報共有・伝達基盤を求めて～

どんなことをやるのか？

- 情報共有・伝達基盤技術を対象に
 - 情報の共有や伝達を快適に行う(大目標)
 - そのために様々なアプリケーションシステムが構築されている
 - 「快適」には「安全」や「安心」も含まれる
- 様々なアプリ構築を通じて快適に！
 - 最近はLinked (Open) Dataの利活用を中心にしていますが、それに限りません！
 - 例えば、一企業に牛耳られるような心配がない、Internet本来の自立分散型の情報共有や意思伝達ツールの新たな姿を考えてみる？
- 今使っているシステムは快適ですか？
 - そうでないなら改善を目指そう！

最近の主だったテーマ類(他研究室と共同のものもあり)

- Linked (Open) Dataの開発・接続・検索(発見)の支援☆
- マイクロタスク型Crowdsourcingプラットフォームの開発
Crowd4U/FusionCOMPプロジェクトの一環

(これまでのテーマ例は下記Webページをご覧ください)

キャッチフレーズは「動いてナンボの阪口研」！

電気工学やハードウェアから、ネットワーク全7層、ソフトウェアはOSからアプリケーション、そして図書館学を学んできた指導教員によるアドバイス有☑:-)

氏名: 阪口 哲男

Webページ: <https://www.sakalab.org/>

(3年生向けページはここからリンクします)

Eメール: saka あつと slis.tsukuba.ac.jp

研究室: 7D312 (普段は下記の共同研究室にいます)

共同研究室: 学系共同研究スタジオ3 (情報メディアユニオン棟3階)



コミュニケーション理解研究室

関 洋平
筑波大学 図書館情報メディア系
yohei@slis.tsukuba.ac.jp



コミュニケーション理解研究室では、人間の言語理解の過程を明らかにしつつ、人と人あるいはコミュニティをつなぐ**コミュニケーションの支援**や、ソーシャルメディア上に現れる実生活において必要となる情報へのアクセス支援について研究を進めています。

教員室：7D-213 学生研究室：7D-140

Web： <http://cu.slis.tsukuba.ac.jp>

教員：1名 学生：7名 OB・OG：24名

自分の興味を見つける努力をしてください。

企業や自治体との研究交流を積極的に進めています。

(NTT, 楽天, 富士ゼロックス, きざしカンパニー, つくば市, 水戸市)

- 水戸市との共同研究 (Twitter で顧客獲得) が、2017年10月2日付、2018年9月18日付の茨城新聞に掲載
- 楽天との共同研究 (重複レシピの検出) が2017年8月20日付のつくばサイエンスニュース等に掲載
- 水戸市との共同研究 (Twitter で市民の声把握) が2016年8月6日付の日本経済新聞 (北関東版) に掲載
- つくば市との共同研究 (Wikipedia Town 筑波山) が2016年4月5日付、4月25日付の常陽新聞に掲載



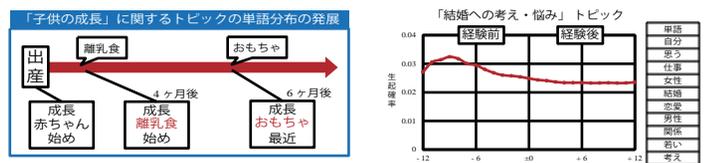
ソーシャル情報アクセス

ソーシャルメディアに現れる多くの情報を利用して、クリエイターを検索したり既存のサービスとは異なるランキング手法を提供

音楽のジャンルと印象を用いた VOCALOID クリエータの検索
(人工知能学会 論文誌採録)



ライフイベントに依存したトピック推移の分析
(情報処理学会論文誌 TOD 採録, ACM SIGIR 2017 採録, DEIM 2017 学生プレゼンテーション賞, 平成 29 年度 茗溪会賞, 平成 29 年度 図書館情報メディア研究科長表彰)



投稿型料理レシピサイト上で重複するレシピの判別
(人工知能学会誌, 第 14 回 W2 研究会学生奨励賞, 第 14 回 W12 研究会学生優秀ポスター発表賞, CEA 2017 採録, W12 研究会 第 6 回ステージ発表採択, DEIM2016 優秀インタラクティブ賞)

人気レシピの内容的特徴に着目した実用的レシピの判別
(CEA 2014 採録, Best Paper Award)
閲覧者による印象を考慮したイラスト投稿者の検索
(ACM SIGIR 2013 採録)

スマートソーシャルシティ

ソーシャルメディアユーザの情報を分析したり、オープンデータを活用することで行政サービスの活性化を支援

市民のツイートをを用いた分散表現に基づく地名に対する市民の関心の傾向の可視化
(日本知能情報ファジィ学会誌 採録, 平成 29 年度 情報学群長表彰)



Twitter ユーザの投稿場所を考慮した属性推定
(ICADL 2016 採録, 平成 27 年度 情報学群長表彰)



市民のツイートを行政課題ごとに分類するための関連語の抽出 (平成 29 年度 総代・情報学群長表彰)

パブリックコメント投稿者を支援するための行政文書の分割 (平成 26 年度 情報学群長表彰)

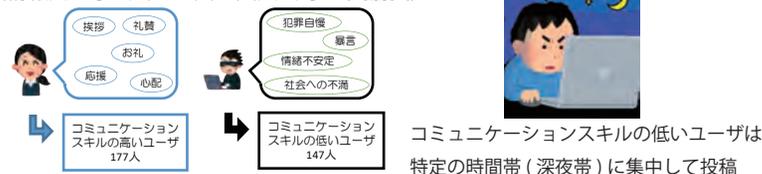
外国人観光客の相談相手となりうる Twitter ユーザの推薦 (観光情報学会誌 採録, W12 研究会 第 4 回ステージ発表採択, 平成 27 年度 図書館情報メディア研究科長表彰)

半教師ありトピックモデルに基づく Twitter ユーザの地域推定 (情報処理学会論文誌 TOD 採録, IFAT ヤングリサーチャー優秀賞, DBS 研究会学生奨励賞, 平成 25 年度 図書館情報メディア研究科長表彰)

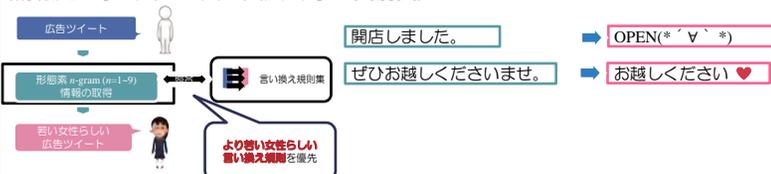
ソーシャルコミュニケーション支援

ソーシャルメディアにおける、より使いやすいコミュニケーションのあり方の提案
新たなコミュニケーションサービスの提供

投稿パターンを考慮したコミュニケーションスキルの分析
(情報処理学会 第 79 回全国大会 学生奨励賞)



宣伝効果を促進するための親しみやすいツイートへの言い換え
(情報処理学会 第 78 回全国大会 学生奨励賞)



感情推定に基づく顔文字推薦システムの構築
(言語処理学会論文誌 採録, 情報処理学会 山下記念研究賞, 日本語学論説資料 掲載)

読者の感性を発信・共有するためのソーシャル付箋
(電子情報通信学会論文誌 採録, 平成 24 年度 情報学群長表彰)

Twitter 特有のコミュニケーション表現の抽出
(平成 25 年度 情報学群長表彰)

時井研究室

情報の可視化をテーマに研究を行っています。

知識の集約、伝達をテーマに

2016-2019 年度

AR + 絵画鑑賞, 知識集約, 身近な科学, 探究的学習、スポーツと地球儀
Kinect + 浮世絵、オノマトペ、調理 + 論理的思考
数学的リテラシー

年間スケジュール

10月 オープンラボ
12-2月 基礎勉強、研究調査、
グループワーク: ミニシステム開発
3月 研究会等で研究調査
4月～ システム開発、実験、論文執筆
3月 学会発表

どんな研究があるのか。どんな技術を習得してみたいか。
などなど、デモ展示をみて、これからの卒業研究をイメージし、
テーマを具体化していきます。



たまに工作
協力して制作!



若林研究室

研究室: 情報メディアユニオン4階 客員研究室

指導教員: 若林啓

研究テーマ

私たちの身の回りには、大量の情報が蓄積されています。近年、この情報をビッグデータとして分析を行い、データに現れる特徴を解明したり、未知のデータを予測したりすることへの利用が期待されています。

若林研究室では、大量のデータから本質的な知識を抽出する機械学習手法と、これをベースにした人工知能の研究を行っています。子どもは周囲の人が話す言葉を手がかりに自力でことばを学習していきますが、この過程では統計学習が行われていると言われていています。統計的機械学習手法を発展させ、文章の意味をより深いレベルで認識させることで、高度な知識抽出や対話システムなどの実現を目指すことが本研究室のテーマです。

研究をすすめる上で望ましい条件

1. 実装力がある、あるいは実装力を身に付けたいという熱意がある
2. 必要なら数式にも立ち向かえる

研究室のみどころ

1. 自由な雰囲気で作業ができる
2. 最新の機械学習手法を学べる
3. 研究設備が充実している（個人PC（MacBook）貸し出し、計算用サーバ4台）
4. SlackやGitHubを活用した環境

主な活動内容

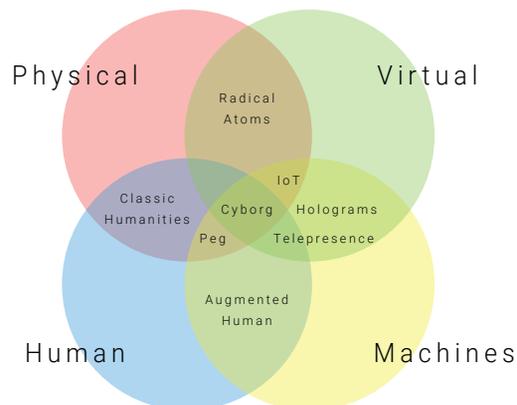
1. 週1回の個別ゼミ
2. 手塚研究室との合同ゼミ・合宿
3. 自主的な輪講（深層学習など）
4. 新メンバー歓迎会

メンバー構成

7名（M2: 1名 M1: 3名 B4: 3名）



筑波大デジタルネイチャーグループ（落合陽一研究室）では、計算機基盤の上に成り立つ現代社会以後のメディア研究のために、単なる表示器上のやりとりを超えて、HCI・CG・CGH・触覚・VR・機械制御・デジタルファブリケーションなどの融合領域の研究を行っています。人の性質をモデル化し、数値解析とシミュレーションによって情報通信の問題として定義することで、人と計算機の共存する生態系を目指しています。そのために空間での光や音とのインタラクションや、触覚応用など、レーザーや強力超音波、磁場制御などを用いた研究から、人間の行動制御に関する研究にいたるまで、弊ラボの掲げるデジタルネイチャーに向かって研究しています。



Research Fields

Application Driven	
Hardware	
Software	
Algorithm	

Members

大学院生・学部研究生の他に、筑波大学の先導的体験者体験プログラムにより所属している学部生などがいます。2019年度の卒業研究配属は、創成4名・知識2名が上限でした。研究員を含め留学生は7名所属しています。

年間を通じて幾つかのプロジェクトを主体的に実施しプロジェクトを変えながら、研究室のメンバーが目指す世界観を研究と展示で見せていきます。1プロジェクトだけでは方向性が見えにくいのですが、複数のプロジェクトをこなしていくことで、見せたい方向性や自分に向いていることがわかっていくことが多いようです。

教員からの指導は、1対1の個別指導ではなく1対多の指導を行っています。本・インターネットによる情報伝達、議事録・Slack等を活用し同じことを伝達する無駄を防ぐ、論文添削は内容の戦略・一部戦術チェックなどを行い、あとは学生同士のチェックが重要となっています。

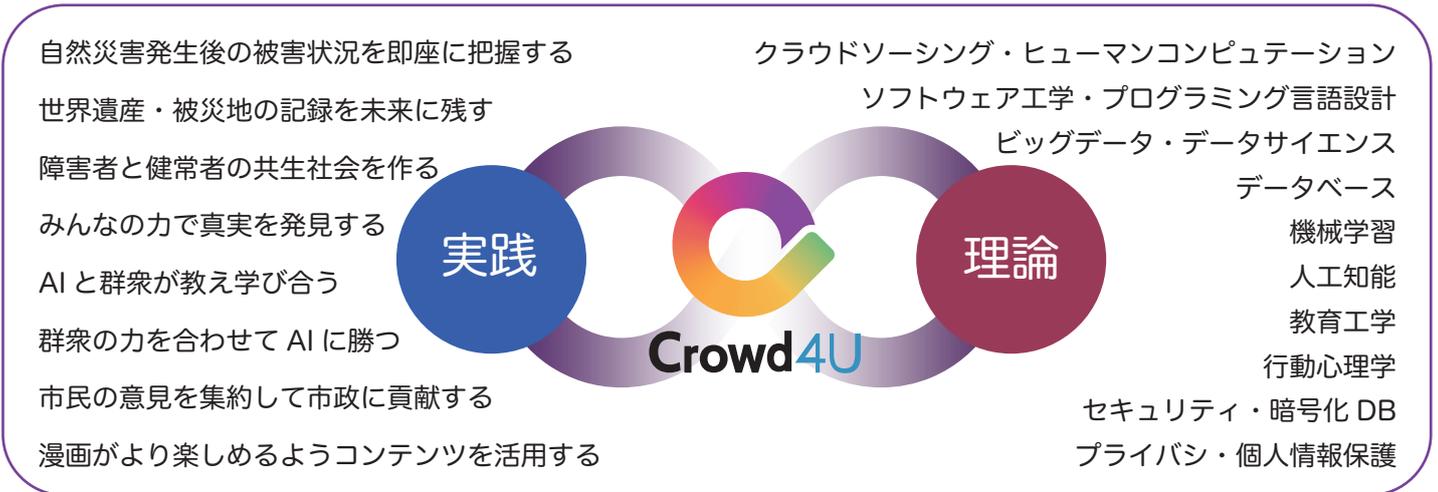
准教授 / 助教	2	
研究員	2	
博士後期	6	
博士前期	15	
研究生	3	
学部研究生	5	
学部生 (ARE 等)	8	
秘書	3	
		44名 (2019年7月22日)

デジタルネイチャー推進戦略研究基盤 / 教員：落合陽一、島影圭佑（図書館情報メディア系）
配属・見学などのお問い合わせの前に、WEBページ「CONTACT」に掲載の「よくある質問 / FAQ」を必ずご確認ください。

■ 研究テーマ & キーワード

Human-in-the-loop Big Data & AI

Human-in-the-loop(ヒューマンインザループ)とは機械が得意な作業と人間が得意な作業を組み合わせ問題解決する考え方です。今後の社会をデザインする重要なキーワードとして注目を集めています。本研究室では、ビッグデータや機械学習と Human-in-the-loop のアプローチを組み合わせる研究を行っています。



クラウドソーシングプラットフォーム Crowd4U の開発を通じて各々が「基盤となる理論」と「フィールド実践」を繰り返しながら研究することが特長です。研究テーマはプロジェクトを引き継ぐ、新たに与えられる、自ら提案するなど自分に合った方法で決めることができます。

■ 主な活動

ゼミ週 4 時間 (研究, 文献調査, 開発), 個別ミーティング週 1 回, 勉強会随時, 合宿, 国内・海外学会発表

■ 過去の主な進路

大学院進学 (国情, シス情) 修士修了後の就職先: Amazon Web Service Japan, ウェザーニューズ, NTT 研究所, NTT データ, NTT ドコモ, キヤノン, コーエーテクモゲームス, 高校教員 (情報科), 新日鉄住金, ソフトバンク, 日立製作所, 富士通, みずほ総研, Yahoo! JAPAN, 楽天, ワークスアプリケーションズ

■ 詳細情報

説明会・オープンラボは 10 月上旬を予定しています。

詳しい日程は研究室 Web サイトなどに掲載します。募集人数: 知識学類 2 名

面談問い合わせ先: fusioncomp-lab@ml.cc.tsukuba.ac.jp (森嶋・渡辺・松原)

<https://fusioncomplab.org>



高久研究室の紹介

研究室Webサイト: <http://www.slis.tsukuba.ac.jp/takaku-lab/>

- 教員: 高久 雅生 (たかく まさお)
- 研究室 (居室) 教員: 7D208室
学生: 7D221共同研究室
- 学生数 (2019年度): 10名 (学類4年次: 4名, 修士: 2名, 博士: 3名, 研究生: 1名)
- ゼミ指導: 研究室全体ゼミによる進捗報告 (隔週) と, 個人ごとの指導 (毎週) を行い, 研究を進めます。
- ✓ 図書館情報学と情報学の融合領域の真ん中を扱う研究室です。
- ✓ 「ひとの知的活動をアクティブに支援すること」を目標に, システムの構築や新しいアイデア, 実装の提案といった多様なアプローチによる研究を行っています。
- ✓ こんなひとにお奨め
 - 情報システムの力を借りて課題を解決してみたい!
 - 情報検索や探索支援の際の利用者の行動に興味がある!
 - 電子図書館サービスのための新しい機能やアイデアを実現してみたい!

情報探索行動

情報探索行動とは, ひとが情報を求めて行動する様子を追跡し, それらにかかわる要因をモデル化し, 探索支援システムへの応用等を図る研究領域です。近年では, ウェブ環境下での記録機器, ソフトウェア等の発達により, より精緻に情報探索の過程を計測し, 情報アクセスのために役立てることが期待できます。

高久研究室では, 探索過程の記録や, 探索記録からの知識発見, 探索者の知識変容の様子を捉える方法論の開発, 特に, 探索タスクや情報ニーズが探索行動にどのように影響しているか解明することを目指して研究しています。

電子図書館

電子図書館は, 既存の図書館サービスをデジタル資料やICTツールを用いて補完, 強化し, 新しいサービス機能を実現する研究領域です。情報検索やエンティティ同定, 情報推薦, 可視化, 利用者行動の分析等の隣接領域の手法を応用したり, 現場のニーズに基づいてサービスの分析や精緻化を行う役割が求められています。

高久研究室では特に, 検索機能の向上, Web APIマッシュアップによる新しい機能の提案, デジタルアーカイブズの活用といった研究テーマのもとに電子図書館の実現に取り組んでいます。

情報検索

情報検索とは, 対象文書群を適切に索引付けし, 利用者の情報要求に基づき, ニーズを満たす適合文書を的確に返すための手法にかかわる研究領域です。利用者の情報要求の分析, 文書構造の同定, 文書の索引付け, 文書ランキング, 検索結果の評価等の手法に多くの研究課題が存在します。近年では特に文書種類や情報要求の多様化と高度化が見られ, ますます多くの研究が必要となっている研究領域の一つです。

高久研究室では, 対象文書のジャンルを特定した検索システムの構築や, 新しい検索手法, 検索インタフェース, 検索評価手法の開発を目指しています。



過去の卒業論文テーマの例

- ディスカバリサービスにおけるクエリとの関連度を考慮した情報源提示システムの構築
- 新書本を用いた学問発見支援システムの構築
- 主題情報に基づく文献探索支援の研究 - 検索結果の可視化と主題ファセットを用いた手法 -
- OPAC利用ログを用いた文献検索システムの構築
- うろ覚えマンガの探索支援システムの構築

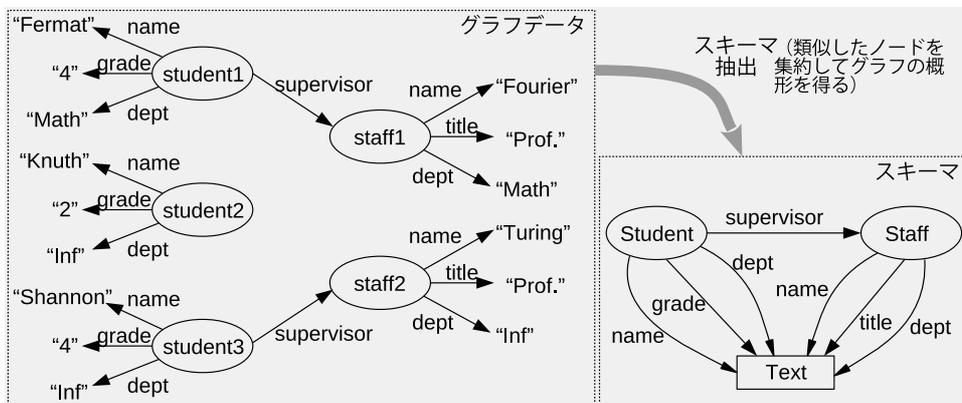
連絡先: 高久 雅生

- Email: masao@slis.tsukuba.ac.jp
- Twitter: @tmasao

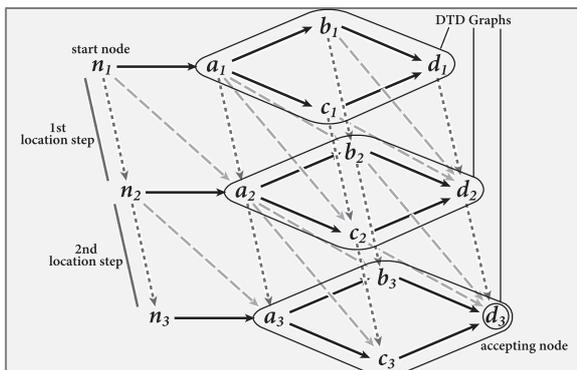
鈴木伸崇研究室

当研究室は、RDF/グラフデータやXML/HTML および CSS など、主に「構造を内包するデータ」について研究を行っています。老若男女を問わず、意欲のある方のご参加を歓迎いたします。

グラフデータ 近年、大規模なグラフデータが急速に増加しています。グラフデータを検索するための手法はいくつも提案されていますが、大規模なグラフデータは主記憶に収まりきらないため、従来の手法では効率のよい処理が困難です。当研



究室では、外部記憶アルゴリズムの技術を応用して、大規模グラフデータにおける効率の良い検索アルゴリズム、スキーマ抽出 (上図) や妥当性検証を行うアルゴリズムなどについて研究しています。



XML 処理 XML の標準的な問合せ言語 XPath を対象に、スキーマに適合しない XPath 式を正しい式に自動修正するアルゴリズムを開発しました。構造的に正しい XPath 式は通常複数存在するので、グラフ理論を応用 (左図) し、ユーザの記述した式に近いものから順にユーザに提示できるようにアルゴリズムを構成しています。このほか、MathML 式の種類・変換、DTD を用いた CSS の妥当性検証、XML スキーマ進化などについて研究を行っています。

電子書籍(EPUB) 自作の EPUB ファイルには表紙が与えられていないものが数多くあります。しかし、書籍の表紙は選書の重要な手がかりとなるため、書籍の内容に合った表紙を自動的に生成できれば有用であると考えられます。当研究室では、EPUB ファイルのテキストデータを解析して、その印象に合った色およびフォントの推薦や、イラストを推薦するシステムを開発しています。

その他 上記のほか、NIMS (国立研究開発法人物質・材料研究機構) と共同で深層学習を用いた結晶の回折画像の解析なども行っています。ご質問などございましたら、鈴木(nsuzuki@slis.tsukuba.ac.jp)まで遠慮なくお寄せください。

学生数：院生 5 名+学類生 5 名

ゼミの頻度：週 1 回+α

研究室：7D204 (教員), ユニオン 3F 学系共同研究スタジオ 3 (学生)

研究室 Web ページ：<http://nslab2.slis.tsukuba.ac.jp/>

HIT

逸村裕研究室

LCA

Episode XIX

B

Contact:

hits@slis.tsukuba.ac.jp

研究分野

大学図書館、学術情報流通、オープンアクセスを研究テーマにしています

所属ゼミ生

B4が2人、M2が2人、Dが2人、社会人院生が多数。教員、先輩からの論文作成やプレゼンテーションのアドバイスを受けられます

ゼミについて

受入人数4名

週1回、学類生と院生合同でゼミを行います。研究発表会や大学院入試前はゼミ頻度が増えます。春と夏に他大学合同ゼミ合宿を行います

過去の研究テーマ

機関リポジトリアクセスログの分析
筑波大学附属図書館貸出データの分析
情報リテラシと高大連携
学群生向け蔵書構築の検討—供給可能率を用いた蔵書評価から—
大学図書館における図書分類変更
大学図書館ブランディングモデル
米国大学における日本研究のサブジェクトライブラリアン

研究環境

逸村研究室は共同研究室7D340に所在しています。ゼミ生に対してそれぞれ席とPC (Win xor Mac) があります。プリンターやスキャナー、おやつも完備

年間スケジュール(一例)

2019年10月：オープンラボ

2019年12月：研究室仮配属

2020年1~2月：研究テーマの構想

2020年3月：春ゼミ合宿@初島

2020年4~ 月：卒論着手発表の準備

2020年6月：卒論着手発表会

2020年7~ 月：卒論中間発表の準備

2020年9月：夏ゼミ合宿@蓼科

2020年10~12月：卒論執筆

2020年12月：卒論提出・最終発表の準備

2021年1月：最終発表会

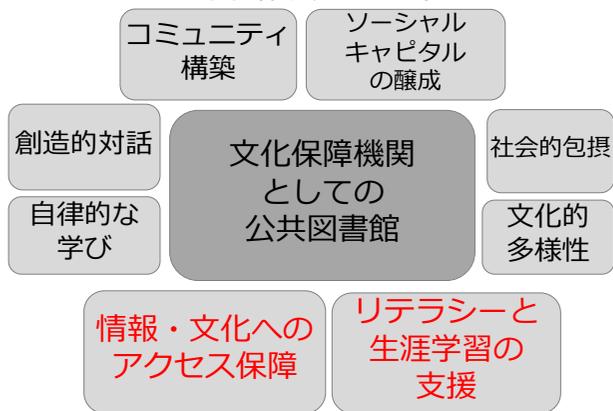
2021年3月：春ゼミ合宿・卒業式

研究室紹介 吉田右子 (研究室116)
yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp

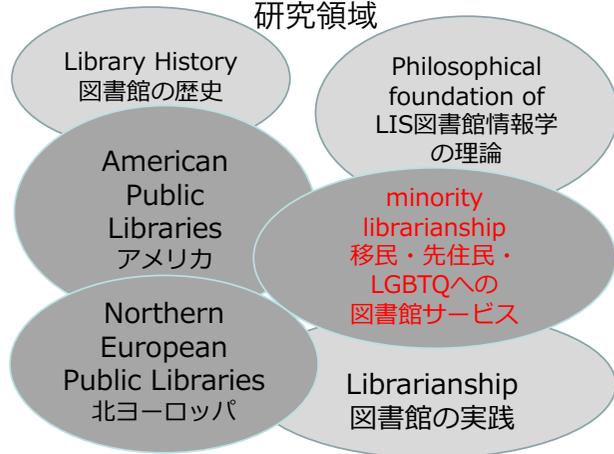


BIBLIOTEKET Renemestervej, København Danmark

図書館研究の射程



研究領域



研究テーマと研究方法

- (1) 生涯学習の空間としての公共図書館の役割に関わる実証的研究 (フィールドワークを中心とする研究です)
- (2) 公共図書館の理念および実践にかかわる歴史的研究 (文献を使った地道な研究です)



Hovedbiblioteket, Aarhus Danmark

研究室配属から卒研提出まで

12月	研究方法について学びます
1月	研究テーマについていろいろな角度から検討します
2月	先行研究の調査【ミニ発表会】
3月	研究テーマの確定【春休み・ゼミはお休み】
4月	研究方法と論文構成の検討・予備調査と執筆の開始
5月	予備調査
6月	【着手発表会】研究方法の確定・本調査の計画
7月	本調査
8月	本調査【夏休み・ゼミはお休み】
9月	調査の中間まとめ・研究構成の再検討
10月	【中間発表会】追加調査
11月	追加調査の取りまとめ
12・1月	論文の総仕上げ・提出・【最終発表会】

卒業研究テーマと進路

- アメリカ・カナダの公共図書館におけるセクシュアルマイノリティに対するサービス
 - 北欧の公共図書館におけるIT利用支援サービス
 - オーストラリアにおける先住民に対する公共図書館サービス
 - 東南アジア諸国のコミュニティ学習センターにおける図書館の役割
 - 教育格差を背景とした子どもへの学習支援の実態
 - インドネシアにおけるメディア環境の変化を背景とした読書の実態
- 【主な就職先】
- 横浜市立図書館・福島県立図書館・成田市立図書館・新潟市図書館・神戸市立図書館
 - 名古屋大学・長崎大学・東北大学・東京芸術大学
 - 東京消防庁・下仁田町森林組合・小金井市



Hovedbiblioteket, Drammen Norge

綿拔豊昭研究室

研究分野について

- ・日本の文化に関することで、時期は明治ぐらいまで。
- ・今年度は四人のゼミ生が「明治期漢詩」「明治期歌書」「明治期歌人」「現代歌人」を研究対象としています。

学生の人数

- ・毎年度、三人を上限としています。

年間スケジュール，卒業論文執筆の流れ等

- ・ゼミ生一人ひとり個別に対応しています。

ゼミの頻度

- ・だいたい週に一回です。
- ・飲食に留意しなければならないので、合宿、飲み会等、団体ゼミ活動はしません。

その他

- ・中央図書館の秋の特別展示を行います。是非、御覧ください。

メディア・インタラクション研究室

今日、私たちはメディアを通じて映像やコミュニケーションを楽しんだり、多くの有用な情報を得たりしています。一方で、有害な映像コンテンツや情報に触れたり、トラブルに合う機会が増えたりするなどの危険もあります。本研究室では、個人のメディア利用、図書館や学校などのさまざまなメディア環境の現状と課題、メディア利用やメディア環境が及ぼす影響などを検討しています。

このような研究を通して、メディアの悪影響を避け、有効に利用していくためには？、より快適なメディア環境を整えていくためには？などについて考えていきます。

🌱 教員： 鈴木 佳苗



🌱 学生： 学類生2名（情報資源経営主専攻）・大学院生4名

🌱 研究テーマ： 「読書やインターネットなどのメディア利用の影響」「メディア教育の実践と評価」「学校や地域における子どもと読書にかかわる取り組みの実践と評価」「児童図書館サービスの現状と課題」「広告の分析」などがあります。

🌱 研究室 Q & A （A.：学生）

Q1. ゼミについて

A. 週に1回ほどのペースでゼミがあります。ゼミの雰囲気はなごやかです。

Q2. 研究のスケジュールについて

A. 12月からしばらくの間は、自分の関心のあるテーマに関連する文献を調べつつ、ゼミ全体で研究の方法について学びます。6月の着手発表会までに目的と方法をできるだけ考えて、その後、調査や実験を始めます。11月頃から論文の執筆開始です。

Q3. 研究室について

A. 研究室には各メンバーが使用できるPCがあります。インターネットも問題なく使えます。大きな机もあるので、研究の議論もできます。

Q4. 卒業研究について

A. 2018年度の卒業研究では、テレビコマーシャルの分析、公共図書館の乳幼児サービスに関する取り組みなどを検討しています。

A. 外部の機関に質問紙調査への協力を依頼したり、外部の機関で実践やインタビューを行ったりします。外部の機関への研究協力依頼ではコミュニケーションスキルも鍛えられます。

🌱 研究紹介（参考 URL）：

<https://www.tsukuba.ac.jp/public/booklets/forum/forum80/O4.pdf>



研究室の様子

著作権法の研究室

研究室について

著作権法を中心に、知的財産法（特許法、商標法、不正競争防止法など）に関する研究を行います。研究手法としては、判決や論文等の文献に基づいて、条文等の解釈論、あるいは立法論や制度のあり方を論じます。原則として、学期中週1回ゼミを行います。ゼミでは、各自の研究成果を報告してもらい、報告内容について議論を行います。

主専攻：情報資源経営主専攻

指導教員：村井麻衣子

募集人数：3名

現在のメンバー（2019年度）：学類…3名

（研究生や大学院生が参加することもあります）

著作権法の研究とは？

著作権法は、情報の一定の利用行為を法的に規制するものです。そのため、権利者の利益と利用者の利益のバランスをいかに図るかが課題となります。法律のあり方は、社会的・技術的な環境により大きな影響を受けます。現代の社会にとって、よりよい著作権法とはどのようなものか、皆さん自身で考えてみてください。

研究テーマの決め方

自分の興味のあるテーマを選んでください。判例評釈（特定の判決についての解説）を書くつもりで一つの事例（判決）を中心に検討してもよいですし、法律上の論点や制度を取り上げてかまいません。

例えば・・・2019年度のゼミ生の研究テーマ

- ・音楽の著作物の類似性判断
- ・著作権判例百選事件（編集著作物の作者の認定）
- ・応用美術

ゼミの進め方・全体スケジュール

ゼミでは、著作権法の基礎を確認してから（目安：12月～3月）、各自のテーマに関連する資料の内容の発表してもらったり（目安：春 AB 頃まで）、自分の卒業論文の一部を発表してもらおう（目安：春 C 以降）という形で進めます。着手・中間・最終発表会の前には、発表資料の確認や発表練習を行います。10月頃までに論文の初稿を完成させることを目指し、11月～12月にはその修正や最終発表会の準備を行うイメージです。

関連科目

「知的財産概論」、「知的財産権論 A」、「情報社会と法制度」、「情報法」などの法律系科目が関連します。研究室を希望される場合は、「知的財産概論」、「知的財産権論 A」を履修していることが望ましいです。特に、「知的財産権論 A」では、裁判例や文献の調べ方などについて実践的に学ぶことができるので、この分野に興味のある方は、ぜひ履修してください。

詳しくは・・・卒業研究指導方針を参照してください。質問などがあれば、メールで連絡してください。

図書館あるいは類縁機関が知識・情報やそのサービスをどのように市民に対して提供するのか、またそれらを通し地域社会における様々な課題をどのように解決していくのかについて、(1)政府（公共政策）、(2)図書館（経営）、(3)市民（図書館の利用者）の3つのレベルを切り口に、マネジメントあるいはガバナンスという観点から研究を進めていきたいと考えています。

卒業研究のテーマ

2019年度

『戦後の日本における公立図書館の平面構成の変遷』
『持続可能なマイクロライブラリーの資金調達メカニズム』
『議論の場としての図書館の役割：公共圏の視点から』

2017年度

『公共図書館における貸出利用の実態－江東区立図書館の貸出データの分析－』
『日本の公共図書館におけるヤングアダルトを対象としたサービスの変遷』
『カルチュア・コンビニエンス・クラブによる図書館経営の実態調査』
『公共図書館における課題解決型サービスの発展』
『日本の公立図書館における児童エリアの変遷』

学生の人数

博士後期課程：5人（うち社会人3人）
博士前期課程：4人
学類4年生：3人

年間スケジュール

12～3月：小泉研内でグループを組んで共同研究
4月：卒業研究のテーマを決定
9月頃：ゼミ合宿
12月：卒業論文提出

ゼミ

週1回、2、3時間程度

共同研究室の環境

モニター、ソファ、冷蔵庫、電子レンジ、
電気ポット、掃除機、交流ノート…etc.
気になる方は7D220まで

ゼミの様子

議論が活発で刺激になります。
研究や発表の課題を指摘し合うことで
論理的な思考が鍛えられます。



研究室
ブログ

小泉研



原 研 究 室

◆研究内容はどんなものですか？

指導教員の原 淳之です。私たちの研究室には、図書館や読み物（リテラシー）の問題を社会・文化的な枠組みで考えることに興味がある学生がよく集まっています。例えば、メディアミックス化する現代の読み物（ライトノベル、ウェブ小説など）の特徴、若者が視聴するアニメと小説における言葉の比較（メディアによる言葉の相違）、小学校の国語教育で扱う児童文学と読書教育における図書館の役割、女性雑誌や編集者はどんな女性表象を伝えてきたのか、など多彩です。

◆卒業研究ってどんなふうに進めるのですか？

研究方法は扱うテーマによって、何がふさわしいかを考えながら進めます。質的・量的分析のどちらも考えられます。テキストの言葉を計量的に分析したり、インタビューに基づく質的な調査をしたりすることもあります。そのさい、事実やデータに基づいた客観的な研究とは何かを考えながら進めます。みなさんはレポートを書くときに、感想のような考察になってしまったことはありませんか。研究では、そうならないように注意する必要があります。研究方法が多様であるせいか、研究室には高校のときの文系、理系を問わず、どちらの学生もこれまで所属しています。

研究指導は教員の研究室で、週1回のペースで行います。全員で集まって報告をしたり、ディベートをしたり、また、個人指導をすることもあります。研究テーマに適した研究方法をみんなで考えたり、研究発表のプレゼンの練習をしたりして、論文を執筆します。

あと、指導教員は、ドイツのテュービンゲン大学日本文化研究所やベルリン＝フンボルト大学の図書館で仕事をすることがあり、その経験からドイツに出張することも何度かありました。ドイツの図書館は日本の図書館とはとても異なっています。そのことに興味がある学生もいましたら相談して下さい。



卒業式での昨年度ゼミ生

◆研究室の雰囲気は？

明るくて賑やかです。《楽しい企画》もあります。みんなでゼミ旅行（軽井沢、湯西川温泉など）に行き、さらにバーベキューや花見をする年もあります。現役のゼミ生4名は、3年生の春休みに那須高原の温泉に行きました。ところで《就職先》ですが、国立大学法人（図書・事務）・独立行政法人の職員、都道府県・市区町村の公務員（公立図書館や学校図書館での勤務を含む）のほか、学校法人、映像・音楽エンタテインメント関連企業、書籍販売・出版・図書館コンサルタント会社、医療研究機関、IT関連企業の勤務など、先輩は全国で仕事をしています。研究室を訪ねられる先輩もいるので話を聞くことができます。

◆他に学生に伝えたいことは？

研究テーマは最初からきちんとしていなくても、ゼミで良いテーマに洗練させていきます。自分にとって興味のあることが良いです。話を聞いてくれる先輩もいます。まずは研究室を訪問して下さい。研究室訪問の希望をメールで送ってもらえれば、面談のための時間をお返事します。

◆ゼミ生による研究室紹介

— 気兼ねなく発言できる雰囲気 —

私たちの研究室は週に1回のゼミがあります。ゼミの後もみんななかなか帰らず、もろもろの雑談をワイワイ楽しくやっています。4年生になると授業がほとんどなく、なかなか学類の友達と会うこともなくなってしまうので、週1でおもいつきりおしゃべりをし、良いストレス発散になっています。私は都内で企業に就職活動をしてきましたが、面接の場で自分の卒業研究のことや最近の出来事を聞かれることが多くありました。卒業研究の説明はゼミ内で随分やってきましたおかげでスラスラと話すことができましたし、みんなで話した内容は研究に関わりのないことでも良い話の種類になりました。悩んだり挫けそうになった時も、みんなに話を聞いてもらったり、応援してもらったり。就活を無事に切り抜けたのはこの研究室だったからだと言っても過言ではないです！

また、私たちは《よく遊び！よく学べ！》をモットーに楽しい企画もたくさん立てています。3年生の3月には新潟にスキー旅行に行きました。この旅行は雑談でポロっと出た話が盛り上がりつつ実現したものです。6月には他の研究室の友達も誘ってバーベキューをしました。たし、研究室のメンバーの誕生月にはケーキを用意して誕生日パーティーも行っています。何かやりたいことを言うと先生も含めた全員が聞いてくれて、積極的に持ちかければどんどん実現します。このように、研究に関することでも、雑談であっても、自分の意見を気兼ねなく発言できる雰囲気は原研究室の何よりの魅力なのではないかと思っています。

（研究室OG 武田未来さん）

アーカイブズ学研究室 Archival Science Laboratory

指導教官プロフィール

バルィシェフ、エドワルド (Eduard BARYSHEV)

7D415 研究室、内線 1347、baryshev@slis.tsukuba.ac.jp

研究分野 (指導可能な分野):

- *アーカイブズ学理論全般、
- *各国の文書館やアーキビスト養成、
- *国家機関 (省庁) 内の記録管理、
- *保存記録の管理・利用に関わる諸問題、
- *記録媒体と情報処理、
- *保存資料 (史料) と歴史学



古代ローマの双顔神ヤヌスのように、過去と未来を同時に見詰めているアーカイブズ学

WHAT ARE ARCHIVES?

①永久保存のために選別され、特別な施設で一定の国家機関・社会団体や個人の活動の証言として保存されている記録資料の総称、②上記の記録資料が保存されている機関および施設

⇒ 社会的な進化とともに変容し、多様化してしまったアーカイブズは、今日、「国家や国民の生活から生まれた過去の諸データ」として再定義されつつあります。



保存記録 (アーカイブズ) の管理および利用の様子 (イギリス国立公文書館、ロンドン)

今日の社会が抱えている諸課題と対応策



イギリス国立公文書館の前

今日の情報時代において、アーカイブズは再び社会の注目を浴びています。公文書やその他の記録資料の電子化、情報技術の普及等がアーカイブズの「通俗化」を促成し、社会科学の在り方を変えていると同時に、様々な問題を引き起こしています。

特に、情報資源の多様化およびその断片化は、記録資料の利用を困難にしているため、情報の分類整理やその管理事業が次第に重要性を増しています。国際的・地域的にみれば、アーカイブズの管理状態には、電子化の度合い、アクセス基準などに顕著に表れているような格差があり、それも情報資源の効率的な使用を妨げています。

この状況下において、日本の国内や国外における記録管理・保存に関する歴史と現状を学ぶことにより、「国民の記憶」としても位置づけられる記録管理の水準向上を目指すことは大きな社会的な意義が認められる。

研究・指導方式

- 国際化の時代が求められる幅広い知識を目指しながら、比較社会学的な方法を頼りにして、学生の関心・達成目標に合った個別的な研究の指導を行っています。
- 隔週、ゼミ方式の授業 (2 時間程度) を行うとともに、個別で相談できる時間を設けます。

人類が今まで作り出した諸記録の遺産に関心を持ち、過去、現在および未来における「文書」の在り方について学び、国際色のある独創的な研究に取り組んでいきたい人を、研究室で待っています。

Dear students, I am waiting for your coming!



mILK
知識情報・図書館学類誌

Extra
October, 2019

Credit

- 知識情報・図書館学類誌 MILK 研究室紹介号
- 発行者 歳森敦（知識情報・図書館学類長）
 - 発行日 2019年10月1日
 - 編集部 西岡志織 中村紗彩 足立直生 内田彩水
小菅哲哉 田島尚晴 豊留沙梨那
 - 協力 知識情報・図書館学類 各主専攻の先生方